

がんばってます！！新大

Vol. 6号

発行日：平成 19 年 8 月 27 日(月)

発行：新潟大学学生ボランティア本部『ボランち。』 URL：http://www.nuvc.info/ TEL：025-262-7530 Mail：gakuserv@adm.niigata-u.ac.jp

七月二十日から二十二日に刈羽村の「新潟大学中越沖地震現地サポーターセンター」に派遣され、併せて現地ボランティアセンター・ボランティアチーム、調整チームの一員として活動された、新潟大学財務部財務企画課 高杉浩文総務係長にお話を伺いました。

○十六日の地震が起きた直後、まず何をしようと思われましたか。

テレビを見たら、津波警報が出ており、私は地元の消防団に入っていましたから、遊泳中の人に海から上がるよう指示を出しました。それから大学に出かけ、職員に電話をかけて安否を確認し、マニュアル作りや、今後の支援をどうしていくかなどを話し合いました。

○現地ではどのような活動をされましたか。

私が行った頃、まだ地震が起こってから日が浅く、ボランティアセンターの中は混乱している様子でした。一日目の主な仕事は、水・食料の積み替えです。トラックでボランティアセンターに届けられた水は別のトラックに積み分けて各避難所に送られます。この作業をトラックの荷台に入っているのですが、荷台の中がかなり暑くて大変でした。二日目は調整班として刈羽村災害対策本部の3回の会議に出席して、提案を出してきました。

○現地でも活動されて特に気になったことは何ですか。

刈羽村役場の職員は八〇人くらいしかいません。ですから、みんな地震が起きてからずっと対応に追われて、寝る間も惜しんで頑張っていました。でも、もう疲れ切っていました。

そろそろ職員さんたちの体力にも、限界が来ていると感じました。選挙をひかえた忙しい時期でしたから、新潟大学も職員を派遣してお手伝いします、と申し出ました。しかし、選挙は重要事項が多いこともあってか、役場からは丁重にお断りされました。

○前回の中越地震の時と、対応の仕方は変わりましたか。

中越地震の時は、本学の長岡附属学校や、長岡高専、長岡技大への支援が中心で、あまりほかの自治体まで手が回らず、よく動けませんでした。今回学生ボランティアに関しては早く対応できました。特に中井さん(ボランち。のスタッフ。今回先遣隊として活動)はすぐに現地ボランティアセンター等で精力的に活動されていて、すごいですね。ただ、大学としては、学生をボランティアに送り出すだけでは足りません。今回は震災と試験期間が重なって、七月二十三日の学生ボランティアはゼロでした。そういうときこそ、職員がサッと動けるようにした

いですね。新大は約一万三千人もの学生と多くの職員がいますから、この組織力を利用して、安定したボランティアを続けられるようにするのが新大の役目だと思っています。今回の新大の活動を新聞が取り上げてくれたおかげで、より多くの人に活動をアピールできました。

○学生や大学の人たちにメッセージをお願いします。

これから仮設住宅への入居が始まり、プライベートが確保されて避難者のストレスも減ってくると思います。仮設の入居に伴う力仕事が増えますから、その時は是非学生に頑張ってもらいたいですね。災害に限らずに、例えば側溝の掃除をする時、蓋が重くて持ち上げられない、そんな時学生が来てくれれば助かります。地域のおじいちゃん、おばあちゃんだけでこういった力仕事は、かなり大変ですよ。ボランティアは、優しさを押しつけて自己満足するものではありません。ニーズを丁寧に拾って、住民の人と一体になった活動をしていって欲しいと思います。

「何か困っている事はありますか？」



財務企画課 高杉浩文 総務係長

現地では、調整チームとして活躍されました。

ボランティアは、優しさを押しつけて自己満足するものではありません。

○自分でボランティアをされて、どんなことを感じましたか。

実際に人と接するボランティアをしたのは、今回が初めてでした。お寺の廊下水拭きをしたのですが、そうした活動の中で地元の人たちと話すきっかけも生まれて、「何か困っていることはありませんか？」と自然に聞けるようになりました。それで喜ばれると、こちらも嬉しいです。なるべく多くの新大職員にも経験してほしいと思います、行ったことのない人はとにかく行ってみたいと、勧めました。こうして被災地の実際の様子を見て、現場で経験することで、初めて分かることもたくさんありますから。もし新大が被災して、避難所になったら、どう対応するかとか、職員の危機管理意識の向上にもつながると思います。

○復興に関して、大学としてはどのような支援を続けていきますか。

新大には災害復興科学センターという、「災害復興」を学問として研究する所があり、ここを中心として支援を続けます。災害によって発生する法的問題や、地形的問題等、様々な分野から対応できるのは、総合大学だからこそできることですね。

(聞き手) 新潟大学学生ボランティア本部

安本典生(理・4)

小林由季(農・2)

学生ボランティア受付人数

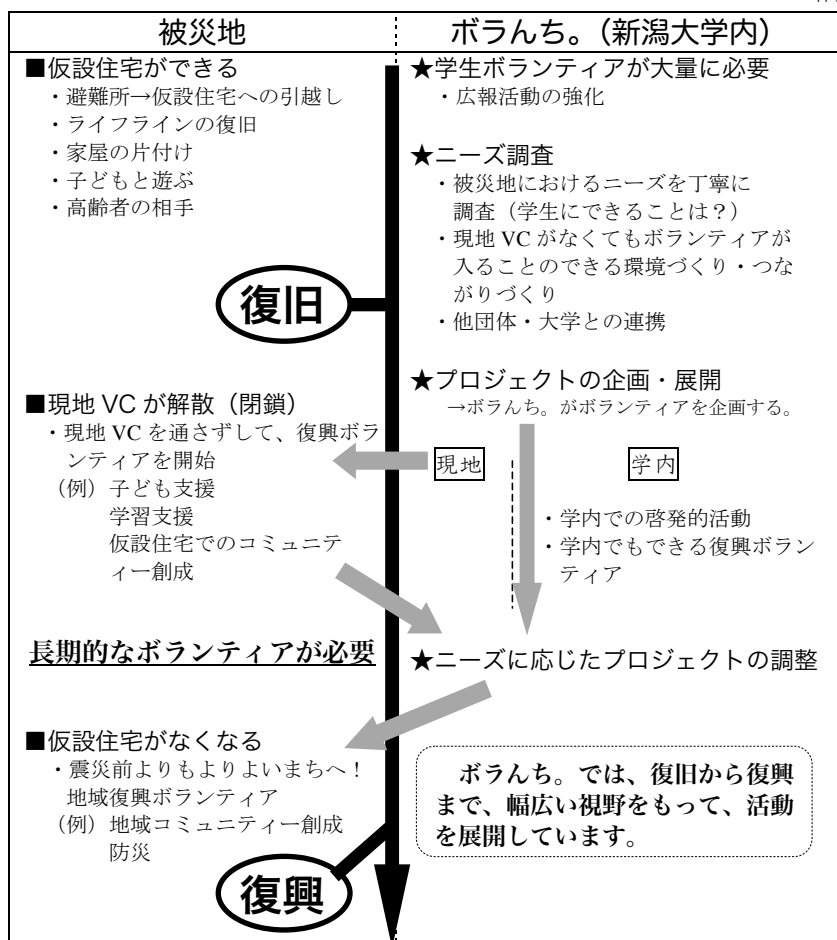
430名突破!

7月17日以降、新潟大学学生ボランティア本部『ボランち。』での、学生ボランティア受付人数が430名を突破しました。

現在被災地では、避難所から仮設住宅への引越し作業が行われています。

今後のボランち。活動方針 (Ver.1)

07.08.09 作成



今後も、被災地では学生の力が必要とされます。夏休みに入り心身ともに身軽になったこの時期、被災地でボランティアを行なう絶好の機会だと思います。ご協力宜しくお願いします。

ボランち。では今後も、現地のニーズにマッチした活動方針を作成します。